

# 市民に想いを示す佐々木鯖江市長 笑顔あふれるまちづくりに勇往邁進

9月29日告示、10月6日投開票の鯖江市長選。すでに佐々木勝久鯖江市長が2月の定例会冒頭、再選に向けて出馬表明した。半年以上も前に意思を明確に示した市長の真意は何なのか。公務に多忙な中、快く取材に応じていただいた。

1期目、4年間を振り返っていかがでしたか。

佐々木勝久鯖江市長 就任時にコロナ禍の状況で、1年目は新型コロナウイルス感染症への対応に追われました。まずは市民の命を守ることを最優先に、感染症対策を徹底的にやらなければと必死でした。職員も経験のないことですし、毎日が手探り状態です。

ワクチン接種など初めてのことで、この規模のまちでどのように態勢を整えようかと。幸いサンドーム福井を12日間確保でき、医師会の皆さんの全面的な協力をいただいで県内市町で最大規模となる集団接種がスムーズに行われ、1万2千人以上の市民の方に接種できました。これも、医師会や県の協力があってこそ。有り難いことでした。

また鯖江市は若い世帯が多く、子育て世帯は子どもがコロナ禍で休校になり、親御さんが出社できず給料が減り生

活が大変で、中小企業も商店も売上が上がらない。皆さんがご苦労されている中、市民生活や地域経済を守るために給食費の半額免除などの生活支援策や消費喚起策、事業者支援、農業者への緊急支援など、手探りの中で目の前の課題解決に職員一丸となって取り組みました。

就任2年目は、子ども子育てトータルサポート事業や保育士確保・定着支援事業、市民力をより高める支援事業などを行ったほか、コロナ禍で制約を受けた子供たちへの思い出作り事業や市内4か所への地域包括支援センターの設置なども行いました。

鯖江市では牧野前市長当時から「市長と語り合う会」を市内10地区を中心に行っていますが、コロナ禍ではすべての地区で行うことができず、団体の方々や市民の皆さんと意見交換会を開催でき、2千

人近くの市民の方とお話しができました。予定時間が伸びるほどいろいろなご意見をいただき、施策づくりに活かしてきました。

2月の定例会市会本会議で早々と出馬表明しましたが、その真意をお聞かせください。

4年前、牧野市長が退任を表明し、わずか3カ月ほど皆さんにやらせてほしいと訴え、厳しい選挙に当選させていただきましたが、コロナ禍もあってなかなか公約通りにはいきませんでした。今回は2期目に挑戦したいと意思を早くに示し、市民との対話の時間をたくさん持った方が良く考えたからです。

公約を掲げて当選してからやるべきだと十分わかっていますが、「市民主役で日本一活気あるまち」と「ワクワク子育て日本一のまち」を掲げ、機構改革と副市長2人制を打ち出し、議会の冒頭に出馬表明させていただきました。